



Title : 漢字変換は慎重に

はじめに前回の当コラムの訂正を。

県内5地区大会の上位入賞者が出場する「平成27年度高校生ビブリオバトル秋田県大会」が、11月1日(日)に秋田市で開催されるとお知らせした箇所です。会場が「県生涯学習課学習センター」となっていました。正確には「県生涯学習センター」です。場所は県庁通りで秋田県児童会館の隣り、秋田県立図書館の向いです。

文章をPCで打つようになってからこういう間違いが多くなりました。どういう間違いかというと、ユーザー辞書機能のいたずらです。皆さんもいろいろ工夫していることと思いますが、私の場合「おお」と打ち込んで変換すると「大館市」が最初に出てきます。「と」なら「図書館」「大館市立図書館」「大館市立中央図書館」などに変換されます。で、「しょうがい」は市立図書館の担当課である「生涯学習課」なのです。「けんしょうがいがくしゅうせんたー」と打つと余計な「学習課」という文字が入ってしまうわけですが、一見おかしくない文字面なのでついスルーしてしまいました。いつも原稿は3人位の目を経てから送るのですが、それでもこういうことがある。皆さん気をつけましょうね。いや、自戒すべきは私でした。以後、気をつけます。

もっとも、文字を書かずに打つようになってから、世の中全般に誤変換や誤字脱字に対して寛容にというか、無頓着になってきているような気がします。いいことかどうかは分かりませんが。

❖本のプレゼント再開中

9月に「雑誌・古本プレゼント」を行ないましたが、この20日から中央図書館ではプレゼントを再開しています。正面入口を入ったすぐの所に、ブックトラック(キャスターのついた小さな本棚のことです)に並べています。

今プレゼントしているのは、先日開催した高校生ビブリオバトルの際にプレゼント用に準備したものです。宣伝不足か2階ロビーだったせいか残ってしまったので、場所を移して提供することにしました。さっき(22日朝です)見たら、個人的に大好きな天藤真『大誘拐』の文庫本などもありました。ハートウォーミングなミステリー、といっても「日常の謎」系ではない、傑作です。雑誌では、映画雑誌のキネマ旬報のバックナンバーがかなりの数あります。どんどんもらってってください。なくなり次第終了です。

あ、念のため言っておきますが、不要な本を図書館に持っていけば処分してくれると思わないでくださいね。前にも書きましたが、諸事情により図書館で寄贈を受け入れる本はかなり限定されるのです。問合せは歓迎しますが、連絡なしに本を持ち込むのはどうかお止めください。

❖図書館員おすすめの本

図書館では毎月テーマを決めて本の展示を行っています。中央図書館ではカウンター前の丸いテーブルが主舞台です。それ以外にもちょっとした場所を見つけてミニ展示を行っています。

中央図書館の今月のテーマは「図書館員おすすめの本」。一般書と児童書をそれぞれ約70冊展示しています。11人の中央図書館のスタッフがそれぞれに思い入れをもって選書しました。特定の分野に偏らないようにという担当の指示もあって、バラエティに富んだ良書が並んでいます。各人のコメントを書いたポップなどあれば楽しいようにも思いますが、資料（本）が自ずから語る声を聴けば十分という意見も頷けるので、余計なものはありません。場所も狭いですし。

それでも、自分の選んだ本にはひとこと言っておきたいので、ここに書いてしまいます。私はなるべく閉架にある本という縛りで選びました。書架で目に触れることのない本にこそ、この機会に光をとという思いからです。どうか借りてもらえますように。

おすすめの本で思い出しましたが、能代市立図書館では成人式で「おとなの仲間入りをしたあなたに贈る20冊の本」というブックガイドを渡しています。市長、教育長から図書館協議会委員、書店員、おはなしボランティア、図書館職員まで、20人がそれぞれの1冊を推薦しています。自分の20歳の頃を考えると、大人から薦められた本を読む気になるかどうか微妙ですが、あらゆる機会をとらえて読書推進を図る姿勢は見習いたいものです。読書離れが言われる世代に向けて図書館として何ができるか、大きくて難しいテーマです。 （陽）